

はじめての

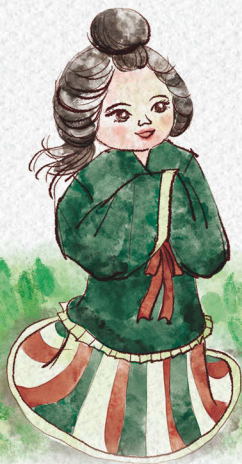
万葉集

[vol.78]

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介します

皇子たちの宮

この歌の題詞には、「但馬皇女が
高市皇子の宮におられた時、ひそ
かに穂積皇子と関係を結び、その
事が露見して作られた歌」とあり
ます。ここに登場する高市皇子・穂
積皇子・但馬皇女はいずれも天武
天皇の子ですが母親はそれぞれ異



人言を 繁み言痛み 己が世に
いまだ渡らぬ 朝川渡る

訳

人の噂が多くうるさいので、うまれてはじめて、夜明けの川を渡ることよ。

但馬皇女 卷二 (一一六番歌)

なり、古代の慣習では異母兄妹の
間での恋愛や結婚は特に問題とさ
れませんでした。但馬皇女は、異母
兄である高市皇子の宮で同居して
いながら、同じく異母兄の穂積皇
子と密通し、そのことが世間に知
られてしまつて二人は自由に会うこ
とができなくなつたようです。そう
した障害を乗り越えてみせるとい
う彼女の決意が、「生まれてこのか
た渡つたこともない朝の川を渡る
(川は男女の逢瀬を隔てる象徴)」
と表現されています。

当時の皇子女は、皇子宮という
宮宅を各自所有して居住していま
した。高市皇子宮は香来山之宮と
も呼ばれ、香具山の麓に立地してい
たようです。但馬皇女はこの宮の主
である高市皇子と同居していたこ
とから、高市の妻の立場であつたと
言われています。一方、穂積皇子宮
の場所は不明でしたが、二〇〇三年

に檀原市出合町・膳夫町で行われ
た発掘調査において、藤原京期の道
路側溝跡から「穂積親王宮」と書か
れた木簡が出土しました。木簡出
土地点は香具山から北へ約一キロ
メートルの位置にあり、この付近に
穂積皇子宮が立地していた可能性
があります。高市皇子の子である
長屋王が平城京で居住していた邸
宅跡では、父の高市皇子宮を指す
とみられる「北宮」と書かれた木簡
が見つかつており、これが「香具山
の北の宮」の意であるとする、高市
・穂積の両皇子宮はかなり近接して
いたのかもしれない。

なお、藤原宮跡から出土した木
簡に「多治麻内親王宮」と書かれた
ものがあり、高市皇子が持統天皇
十(六九六)年に亡くなった後、但
馬皇女は独自に皇子宮を構えたこ
とが判明しています。

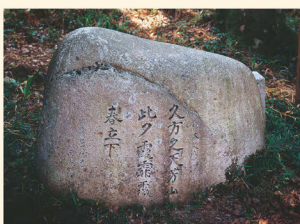
(本文 万葉文化館 竹内亮)

香具山(檀原市)

高市皇子や穂積皇子の宮が近く
にあつたと考えられる香具山には、
北麓の天香山神社付近や西麓の香
久山観光ト
イレ付近など
数箇所から登
ることができ
ます。



所 檀原市南浦町
檀原市観光政策課
☎0744-21-1115



天香山神社には万葉歌碑があります。
(写真提供：檀原市教育委員会)

万葉ちゃん

つぶやき

和歌に関連
するものを
紹介するよ!



万葉ちゃん